

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信
No.61(2004.11.15)
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119
大垣市田町1-20-1 近藤方

台風23号でまた荒崎地区に浸水被害

10月20日の台風23号は、岐阜県中に災害をもたらしました。これまで台風による災害の少なかった飛騨地方が大災害に襲われたのが特徴的です。

<揖斐川沿川での状況は次の通り>

20日昼前から降り始めた雨は、大垣では夜半にはほぼ上がった。総雨量は大垣市万石で210mm、大垣市赤坂で290mm、垂井町谷で343mm、上石津町下山で245mmなど。12時間程度の平地の雨量としては大きい方だろう。山間部は徳山で293mm、川上で169mm、根尾で278mm。これらの地点としては特に大雨ではない。空ダム状態だった(貯水率1.8%)横山ダムは貯水率51.4%(20日24時)まで貯め込んで十分に「役立った」。「横山ダムの上流の徳山ダムが完成していれば・・・」とは、さすがに誰も言わない。

当会事務局の北側の牛屋川の水位は減多にないほど上昇(20日19時で竹田橋下20cmまで上昇。水はほとんど動かない)。「荒崎地区が危ない」と分かった。国交省の「川の防災情報」はこういうときは「アクセス多数」で使えない。岐阜県河川課の防災情報にアクセスした。荒崎排水機場地点を注視。「越流した」とは載らないが、水位を計算すれば越流堤の天端を超えたかどうかは分かる・・・18時には越流が始まった。

大垣市西部の揖斐川支流・大谷川の洗堰ら水があふれ出した荒崎地区(写真)。同市は、午後五時四十分ごろ、同地区の千八百四十四世帯六千六百六十二人に避難勧告を出した。同市長松町の荒崎小学校と市勤労者総合福祉センターには、不安そうな表情を浮かべた住民らが次々に集まった。避難した住民は午後八時半現在で九十人。(岐阜新聞 04.10.21 朝刊記事)

荒崎地区の人の話

20日15時~16時頃から内水によって道路の冠水が始まった。大谷川右岸越流堤からの越流は上記避難勧告(17:40)と同時くらい。越流が止まったのは21日8時20分頃。土嚢積みみの仮囲い堤を超えて住宅地域に水が入ってきたのは20日23時頃。大垣市は「土嚢積みによって浸水する時刻を遅らせることが出来た」というが、水が引くのも遅らせたのであり、21日の夕刻になってまだ水は引ききっていない。大垣市が購入したポンプ車が3台出て排水したが、ほとんど役に立っていない。床上浸水=16棟、床下浸水=364棟。

なお、荒崎水害訴訟第1回口頭弁論が、11月18日(木)10時10分から岐阜地裁で開かれます。被告・岐阜県は驚くような答弁書を出す、という話が伝わっています。それは、もしかすると、水害訴訟の新たな地平を切りひらきうる、ということかもしれません。

11月30日(火) 10時00分~徳山ダム住民訴訟控訴審

名古屋地・高裁合同庁舎2号法廷(大きい法廷です)

公金支出差止訴訟です。新フルプランー新岐阜県長期水需給計画に基づく岐阜県の工業用水負担の差し止めを求めるため、資料請求をします。

「提言」を広げましょう！

香川県小豆郡内海町で、「水源開発問題全国連絡会第11回総会」（10月30日）が開催され、全国各地の水害の報告を受けて緊急に「提言」を作成しました。翌日に開催された及び「小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会」（山陽新聞記事参照）でも500名を超える参加者の満場一致で採択

されました。

11月1日に、内海ダム問題現地、肱川-山鳥坂ダム問題現地住民らと水源連事務局など27名が、香川県及び国交省四国地整を訪れて手渡しました。また、国交省河川局その他河川管理部局の多数にFAXしました。

提言

<治水にダムは無用>

今年も各地で異常降雨による激甚な水害が発生しました。その原因を探ると多くの共通点が見いだされる。

1. 想定規模をを超えた豪雨に対しては、ダムは無効どころか、大きな災害をもたらすものである。
2. これらの災害は、ダムに依存してきた体質が、河道整備を遅らせたことに起因することである。
3. 森林の荒廃が、保水力の低下をもたらし、併せて、流木による水害被害を拡大した。
4. これらの洪水被害で、構造において欠陥のある堤防が各地に存在し、それが破堤を引き起こし、甚大な被害をもたらした。

これらの事実を河川整備計画において、基本とすべきである。

よって次のことを河川行政のあり方として提言する。

- 1) 森林整備を公共事業として、推進すること。
- 2) ダムを前提としない河道計画を立て、早急にそれを実現すること
- 3) 堤防を総点検し、その問題箇所の強化工事を速やかに実施すること
- 4) 膨大なダム建設予算を、河道整備、森林整備に置き換えること。
- 5) 住民主体で、遊水地や霞堤などの地域の特性に対応した洪水対策をとること。

水源開発問題全国連絡会 第11回総会参加者一同

小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会参加者一同

2004年10月31日

この「提言」を各地で大いに広めて下さい。そして、交渉相手の行政などにも送り（手渡

小豆島で水害考える集会

ダム頼らない治水を

田中長野県知事が講演

今年相次いだ高潮や洪水被害をきっかけに「小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会」が三十一日、内海町のJ A 内海支店で開かれ、二〇〇一年に「脱ダム」宣言を発表した田中康天長野県知事が講演した。ダム建設見直しを訴えている市民グループなど、全国から約五百人が参加。田中知事は宣言のきっかけや住民と行政の話し合いをどう進めたかを振り返り「河川改修をきちんと行えば、ダムに頼らない治水はできる。霞深直下にある現在の内

県外のゼネコンに任ずる海ダムを再開発し、堤長が三倍の四百四十七メートル、建設を計画。住民の暮らしているのは分かれ、反対派は立ち木トラストを実施し、用地測量を拒否している。

04.11.01 山陽新聞

七月十三日の豪雨で大きな被害を受けた新潟県三浦川から参加した三橋允子さんは「ダムがあるから安全だと思いついてきた。もっと河川改修にお金をかけておけば、被害は大きくならずすんだのではないかと話していた。

香川県は、内海町の豪

し)、話し合いの土台として行きましょう。

徳山の秋の青空にクマタカが舞った

2004年11月6日(土)多分今年最後になるかもしれない「徳山ダム工事現場見学」に行ってきた。岐阜のTさんの運転で、各務原のUさんご夫妻、それに長良川を愛する会のSさんと5人で。

ダム本体工事がどんどん進み、何だか「ダムが存在して当たり前」のような一種整然とした光景になりつつあります。10月末現在、堤体盛り立ては体積で74%まで進み、高さも100m程度になりました。

「徳山ダム問題」に取り組む者として徳山現地を訪れるようになって、そろそろ丸9年になろうとしています(ダム問題の傍観者としてなら23、4年)・・・夫が亡くなってから、訪れることが少なくなり、行く度に光景が大きく変わっていくのを胸が締め付けられる思いで見えています。

特に昨年6月7日、「中日新聞」が1面トップで「徳山ダム さらに1000億円超」と報じた日(*)、水公団の案内で、私たちは堤体の零m地点に立っていたことを痛切に思い出します。コア材を突き固める作業の傍らに、元々の揖斐川の川石も転がっていました。子どもの頃、まさにその場所の淵で遊んだOさんが「揖斐川の石だ」と呟いて拾い上げました。それを聞いて、私もいくつかの石を拾いました(大切に置いてあります)。

ダム堤体中心部零m地点において、再び揖斐川の水が流れて淵を形作ることはないでしょう。取り戻せないものを失ってしまいました。

*「現行事業費が尽きる」のを見越して、私たちが「最後の暴れ」を仕掛けて臨んでいるまさにその時でした。

「工事現場見学」後、本郷(徳山)に行き、秋色の山を眺めながらおにぎりなどを食べました。もう午後2時になろうとする時間だったと思います。「出ないかなあ」と見上げるUさんがあきらめて双眼鏡を車にしまいこんだそのとき、東側の稜線に明らかにトビとは違う鳥の影がよぎりました。すでに斜めになった陽の光を浴びて、腹の部分が一瞬白く光りました。

いっせいに見上げて待つこと数分。また稜線から姿を現しました。飛翔の描く曲線、翼の形・・・間違いありません。クマタカです。

ときに稜線に隠れつつ、10分以上、クマタカは私たちの視線の先を舞いました。

8月のキャンプ(ずっと奥の「塚」で行った)では見られなかっただけに感無量です。

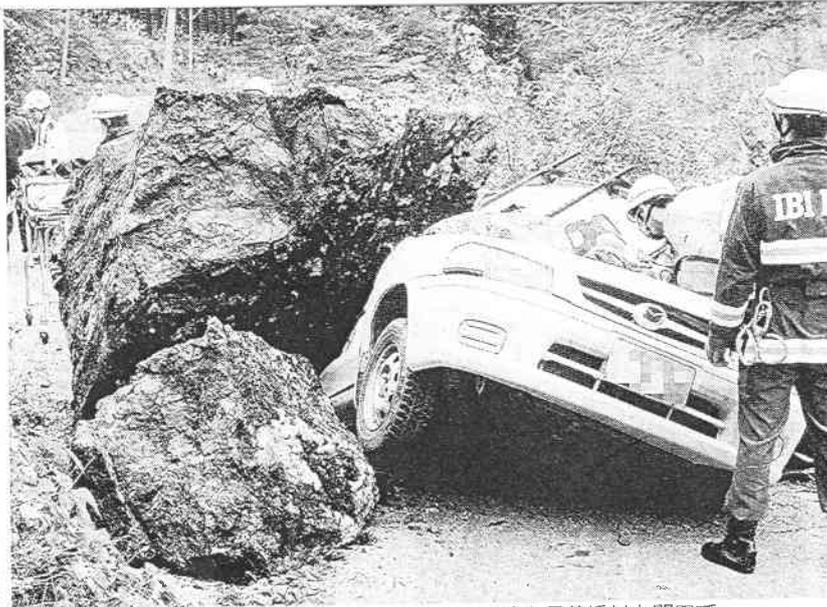
戦後、一度丸裸に(皆伐)された徳山の山林は、「ダム話」ゆえに杉等の人工林に変えられた面積は少なかった・・・2次林の雑木林(広葉樹林)が育ってきました。

その森が、イヌワシ5つがい、クマタカ17つがいという、全国にも稀に見る多数の大型猛禽類(イヌワシ、クマタカともに絶滅危惧種)を育てているのです。

たとえ堤体は出来ても湛水させてはいけない。徳山の森をさらに育み、貴重な生態系を保全していかねばならない。そうした私たちの責務を、あらためて胸に畳み込んだ秋の日でした。(近藤)

徳山ダム堤体用コア材採取現場直下での落石 人災ではないのか？

門入出身ご夫妻受難
西谷の道が常に
「危ない」のは
水機構の責任だ



落石でつぶされた乗用車＝31日午後、岐阜県藤橋村上開田で

車グシヤリ 夫婦あわや

落石が直撃…軽傷

古里・徳山へ向かう途中

藤橋村

三十一日正午ごろ、岐阜で岩石が落下し、同県揖
泉県藤橋村上開田の村道＝斐川町上南方、団体職員



落石現場

清生(せいりゅう) 峯繁
さん(せいのりゅう)の乗用車を押し
つぶしているのを、通り
かかった観光客が見つけ
て一八九番した。峯繁さ
んと妻数子さん(かずこ)が車
内で体を挟まれており、
観光客三人が助手席の窓
ガラスを割って数子さん
を救出。運転席の峯繁さ
んは約一時間三十分後、
消防署員らが助け出し
た。夫妻は打撲などの軽
いけが。
揖斐署の調べでは、落
下したのは縦二・五尺、
横二・四尺、高さ一・七
尺の岩で、重さ四一五
ト。村道脇の斜面にあ
る大きな岩から割れ、三
一四尺下の村道に落ち

た。

岩は車に覆いかぶさる
かたちとなって運転席部
分の一部も押しつぶした
が、直撃したのが後部座
席だったことから、夫妻
は奇跡的に軽いけがです
んだとみられる。

岩の割れ目には雑草の
根が入り込んでおり、同
署は「長雨と、雑草の根
の影響で岩が割れた可能
性もある」とみて調べて
いる。

峯繁さん夫妻は以前、
現場の西約十メートルの藤橋村
門入(かどにゅう)の旧
徳山村門入に住んでい
たが、徳山ダム建設のた
め転居した。かつての家
があった場所をしばしば
見に行っており、この日
はその途中で事故に遭っ
たらしい。

04.11.01 中日新聞

徳山ダムを巡る河川法僭脱につき、水源連から日弁連に要請書提出

日本弁護士連合会及び同公害対策・環境保全委員会宛に、水源連から「徳山ダム事業実施計画変更における明らかな河川法僭脱につき、日本弁護士会連合会としてのご意見を示して下さい」という要請書を出しました。間もなく開かれる委員会で議題となることと思います。

籠橋隆明弁護士、「第4回日本自然保護協会沼田眞賞」を受賞

徳山ダム裁判弁護団事務局長の籠橋隆明弁護士が沼田賞を受賞されます。12月23日に東京で授賞式と記念シンポジウムが開催されます。受賞理由など、下記URLに掲載。

<http://www.nacsj.or.jp/event/nacsj-event/numata-041223.html#sympo>

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫
編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1
TEL/FAX 0584-78-4119 Email: tokuyama-dam@cside.com
URL: <http://tokuyama-dam.cside.com/>
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円

水また水 つめ跡深く

台風23号

死者・不明7人に

台風23号が県内を直撃して一夜明け21日、各地で大きな被害が明らかになった。記録的な豪雨が襲い、飛騨地方では土砂崩れが、美濃地方では水害が相次いだ。県内の死者・不明者は計7人のほか、台風にも被害としては、最近15年間は89年9月の8人に次ぐ規模だ。行方不明者の捜索や、泥にまみれた自宅の掃除などがあちこちで続いた。



大谷川の洗堰(左上)から水があふれ住宅地が冠水した。大垣市荒崎地区、本社へりから



冠水した住宅地を歩く住民ら。同市島町で洗堰(右方向)から越流した濁流などで、土嚢堤は先端部分を壊すだけとなった。同市十六町で

土嚢堤の効果に限界

大垣 洗堰 床上浸水28戸、床下112戸

県内各地で、死者・不明者7人に加え、高山市や大垣市、国府町などで重傷者14人が出た。また、河川のはらりによる浸水被害も各地で相次ぎ、家屋の床上・床下浸水は過去15年間で最も多かった。

02年7月の豪雨で水害に見舞われた大垣市荒崎地区が、台風23号でも水害に見舞われた。2年前と同様、地区を流れる大谷川の水が洗堰を越流。市が教訓を生かして堰を固め、浸水を防ぐ土嚢堤も乗りこえられた。土嚢堤も浸水し、住宅地まで浸水した。被害は2年前に比べ

02年7月の豪雨で水害に見舞われた大垣市荒崎地区が、台風23号でも水害に見舞われた。2年前と同様、地区を流れる大谷川の水が洗堰を越流。市が教訓を生かして堰を固め、浸水を防ぐ土嚢堤も乗りこえられた。土嚢堤も浸水し、住宅地まで浸水した。被害は2年前に比べ



土嚢堤は、徳山ダム完成で治水が向上すると思われる01年度までの応急策として、市が昨年8月に進めた。1130戸にわたる、洗堰を取り囲む形で土嚢を積み上げ、洗堰の高さを上げた。洗堰を越流した水をためこむダムのようなもので、降水量などが2年前の豪雨と同じ状況だった場合、3時間ほど水をくいとめることができる。

今回の台風で市は、普段は開放している道路との交差点を午後4時に締め切り、堤を機能させた。しかし、田んぼや用水からあふれた内水が、土嚢堤で遮られる形になり、洗堰が越流する前から周辺では冠水が始まった。住民による土嚢堤の水が流れ込む土嚢堤の内側より、住宅などのある外部の方が水位が高かった時期もあったという。2年前の水害で県を訴えている荒崎水害訴訟の安藤隆時原告団長は「越

10号で4545棟が床上・床下浸水したのに比べ、多量に土砂崩れ、土砂崩れなどで全壊した民家は3棟、半壊・一部損壊した民家は16棟を数えた。岐阜市の長良川沿いや

4.0が所定通行止めになった。河川では、堤防が決壊する恐れがある。計画高水位を菅川(飛騨市古川町)と長良川(美濃市)・岐阜市青見の橋頭所で超えた。奥河川課は臨時休校した。

04.10.22 朝日新聞(岐阜版)

04.10.22 岐阜新聞

04.10.22 中日新聞

高潮でゲート全開 長良川河口堰 海水遡上問題 三重県長島町にある水資源機構・長良川河口堰(せき)で20日夕、堰上流に海水が遡上(そじ)した問題で、同河川

台風による気圧の変化で潮位が上がったという。一方で河口堰上流の流量洪水規制の毎秒八

家屋への浸水698戸 農作物にも痛手 県道など通行止め

大垣市内の被害まとめ 同市災害対策本部のまとめ(21日午後一時二十分現在)では、床上浸水四十八戸、床下浸水六百五十八戸に上った。うち荒崎地区は床上二十八



鉄道高架下の道路に水があふれ水没する車もあった。20日夜大垣市宮町町

西濃地方 各地で水浸し